

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間におきまして、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間におきまして、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、個人消費は底堅く推移するなど、全体として緩やかに持ち直してきた感がありました。旅行業界における海外旅行動向は、円高基調やシニア世代における旅行機運の高まりなどにより、増加傾向で推移しました。日本政府観光局（JNTO）による平成23年11月から平成24年7月にかけての日本人出国者数（推計値）は、前年同期比約14.5%増（約171.1万人増）の約1,351万2千人となり、過去最高の出国者数となる見込みになっております。

このような経営環境の中で、当社グループでは、主力のセグメントであります旅行事業において、「安全」と「安心」、「サービス」と「品質」の向上に努めつつ、日本国内外で事業を拡大していくために、オリジナリティ溢れる各種の施策を展開いたしました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

①旅行事業

インターネットを利用した取り組みとしましては、お客様の利便性をより高めるため、「海外航空券+ホテル」予約サイトを新たに構築し（平成24年5月）、サービスの提供を開始いたしました。また、ツアー検索及び予約画面をよりお客様に分かりやすくし、手順の簡略化などの改善を行った結果、インターネットを利用した販売は好調に推移いたしました。独自の旅行商品やサービスの展開としましては、チャーター便（バンコク行きのジェットアジアエアウェイズやイタリア行きのメリディアーナ・フライなど）の販売強化を行い、多くのお客様にご利用いただくことができました。そして、強化を図っております添乗員同行ツアー「impresso（インプレッソ）」では、ルーブル美術館貸し切りプランなど、オリジナリティ溢れる商品展開を行い、多くのお客様にご支持いただきました。

法人旅行への取り組みとしましては、SFIDA-online（企業様向け自動予約システム）を活用した販売強化を行い、ご利用企業様が着実に増えております。また、公式旅行代理店を務めたロンドンオリンピック観戦ツアーや団体旅行も好調に推移いたしました。販売チャネルとしまして、東日本では生産効率を重視した小型店舗の展開、西日本では梅田本店に専門店を新規オープンするなど、販売体制の一層の強化を図りました。

国内旅行事業の取り組みとしましては、新たに就航したLCC（格安航空会社）を利用したツアーや日本旅行と共同企画したJR利用ツアーを発売するなど、国内旅行事業の拡大へ向けた新たな施策を展開しております。

海外における旅行事業の取り組みとしましては、海外拠点が入入・造成する海外ホテルの客室やオプションツアーなどの商品を、インターネット経由で日本や海外の旅行者へダイレクトに販売を行う

「H. I. S. VACATION事業」やアジア圏中心に日本人以外のお客様に海外現地発の旅行商品を販売する「海外アウトバウンド事業」の一層の強化を図りました。そして、タイに続いて、シンガポール、マレーシアにおきましても現地のお客様向けオンライン予約サイトをオープンしました。今後も現地に根付いたサイトの構築をアジア各国で推し進めてまいります。さらには、他の旅行会社へのホールセールである「B to B事業」も積極的なセールス活動を実施し、順調な伸びを示しております。

以上のように各種の施策を展開した結果、日本国内および海外における当第3四半期連結累計期間における旅行事業は順調に推移し、売上高2,857億96百万円（前年同期比115.1%）と増収を確保することができました。利益面につきましても、生産効率を重視した営業展開などが寄与し、営業利益57億94百万円（同124.6%）と増益となりました。

②ホテル事業

ホテル事業につきましては、オーストラリアの2ホテルと日本の2ホテル共に、お客様満足や収益性の向上に努めましたが、売上高19億55百万円（前年同期比114.1%）、営業損失1億15百万円となりました。また、グループ化した「グアムリーフホテル」（グアム島のタモン湾沿いのホテル）は、お客様のご利用が順調に伸びており、今後も一層の販売強化を図ってまいります。

③テーマパーク事業

テーマパーク事業を運営するハウステンボス株式会社は、開業20周年を記念した特別企画を数多く実施しました。100万本のバラに包まれた街と称した「バラ祭」の開催や、一週ごとにビッグゲストを迎え様々なジャンルの音楽を楽しめた「ハウステンボス音楽祭」の開催など、新規イベントがご好評いただき、売上高114億36百万円（前年同期比124.2%）、営業利益19億45百万円（同337.2%）と好調に推移しました。

なお、当第3四半期連結累計期間におけるハウステンボス株式会社の単独業績（平成23年10月から平成24年6月まで）は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

| | 前第3四半期 （自 平成22年10月1日 至 平成23年6月30日） | 当第3四半期 （自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日） | 前年同期比 | 対前年同期 増減額 |
|-------------------|--|--|-------------------|------------------|
| 入場者数 （うち、海外客数） | 1,290千人 （108.6千人） | 1,337千人 （107.0千人） | 103.6% （98.5%） | 47千人 （△1.6千人） |
| 売上高 | 9,133 | 10,967 | 120.0% | 1,834 |
| 営業利益 | 614 | 1,808 | 294.2% | 1,194 |
| 経常利益 | 1,270 | 2,551 | 200.8% | 1,281 |

④運輸事業

平成24年2月29日、HTBクルーズ株式会社のオーシャンローズ号が「長崎～上海航路」に初就航しました。5月まで運航の後、6月より各方面からの要望を取り入れた改修に入りました。7月25日からはより高いクオリティで本格運航を開始しております。同社では、今後も安全運航に注力しつつ、「ローコスト・エンターテイメント・シップ」として、船内におけるエンターテイメント施設を充実させ、中国からの新たな訪日旅行需要の獲得へ向け取り組んでまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高2,988億77百万円（前年同期比115.5%）、営業利益57億34百万円（同139.2%）、経常利益71億87百万円（同135.7%）、四半期純利益46億27百万円（同91.2%）となりました。

なお、平成24年7月13日提出の臨時報告書に記載のとおり、九州産業交通ホールディングス株式会社は平成24年7月19日付で当社の子会社（特定子会社）となっておりますが、当第3四半期連結累計期間は引き続き持分法を適用し、第4四半期連結会計期間より連結の範囲に含めることとします。

金額はセグメント間取引を含めております。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。